筑波研究学園都市を事例とした土地利用遷移分析

Land use analysis considering transition probability: A case study of Tsukuba Science City

水谷 千亜紀 [1]; 小荒井 衛 [2]; 中埜 貴元 [2]
Chiaki Mizutani[1]; Mamoru Koarai[2]; Takayuki Nakano[2]

[1] 筑波大・空間情報科学分野; [2] 国土地理院
[1] Division of SIS,Univ. of Tsukuba; [2] GSI

http://giswin.geo.tsukuba.ac.jp/sis/students/mizutani/

土地利用は任意の時点における，地点での人間活動を反映しているため，その状態や遷移動向を把握することは人間社会を理解することにつながる．土地利用を規定する要因としては，自然的・社会経済的・都市計画的要素が挙げられており（伊藤・村田，2000），特に大規模開発計画は土地利用に対する影響が大きいため「イベント」としてみなされる．そこで本研究では，2005 年につくばエクスプレス（TX）の開通という「イベント」を経験した茨城県つくば市のなかでも，現在も土地開発が進行している地域を対象として，土地利用遷移構造を明らかにすることを目的とする．

データは，国土地理院発行の「数値地図 5000（土地利用）」（2000 年）と 2005 年と 2008 年撮影のデジタルオルソ画像およびその間に刊行された 25,000 分 1 地形図を用いて，2000 年から 2008 年までの土地利用変化を時系列で抽出する．これにより，TX 開通前後の土地利用遷移状態を把握する．また，土地利用を遷移状況や変化量と併せて，変化地点や変化の生じなかった安定地点の両方に着目した空間解析や，土地利用と敷地面積との関係性を分析することによって，土地利用遷移構造を明らかにする予定である．

参考文献

伊藤史子・村田亜紀子 (2000) 千葉県流山市南西部における土地利用変化 NN モデルの構築：細密数値情報を用いた変化要因分析．日本都市計画学会学術研究論文集．35, 1129-1134.